入選

タンポポ

古川　潤　　福島県喜多方市　　三十一歳

初めてもらった花は黄色のタンポポだった。

我が家にはいたずらっ子の三歳の息子がいる。年が明けてから弟が産まれ、家の都合で保育園が変わり、誰に甘えていいのかわからない時期だったのだろう。なんだかコミュニケーションがうまく取れず息子とのすれ違いを感じていた頃のことだ。

保育園に息子を迎えに行くと、先生が

「お母さんにあげるんだってとってきたんですよ」

と言ってビニール袋に入ったしおしおのタンポポを渡してくれた。息子も

「お庭でタンポポとってきたの！ママにあげようと思ってね、おみやげだよ！」

と負けじと横から言ってくる。私は嬉しくて、そして自分が恥ずかしくて泣きそうになった。自我が芽生えてからはなんでも独り占めしたがってばかりいた息子。弟の世話が加わり心に余裕がなくなった私は以前より小さな事で怒りやすくなっており、息子に当たる事もあった。そんな中でも彼の心は成長していて、こんな母親でも優しさを向けてくれたのだ。

私にとって一輪のタンポポがこんなに愛しく思えたのは初めての事だった。

「ありがとう。このタンポポ、大事にするね。」

そう言って息子と手を繋ぎ家路についた。